

精密機器輸送のプロをめざして歩む



大型空調車を増車へ

【兵庫】すぎお産業(杉尾敏正社長、神戸市西区)は創業から41年。かねて精密機器輸送に特化して歩んできたが、エアサスに加えて跳ね上げ式のテールゲートリフターも全車に備えるなど、さらに近年はプロフェッショナル色が濃くなっていく。2月19日付でホームページも開設した。精密機器の輸送にとって最大の課題でもある結露対策だが、夏・冬季の輸送品質を高レベルに維持するの

職場の高齢化が進んでいること。求人活動が難しい時代になっているが、「直近の半年間で40歳前後の3人を採用できた」と話す。

募集にも工夫を凝らすよう、同じ意味でも求職者に響くワードを使う。例えば長距離ではなく、『北海道から南は沖縄まで』といった具合。その視点で求人ページを作り直したと、外部セミナーでの学びに手ごたえも感じている。

すぎお産業

精密機器輸送に特化

が同社の使命。荷室の冷暖房が利く大型トラックを昨年末に1台増車し、現在は計3台となった空調車も全国を走っている。

今後も「精密機器にこだわる路線はブレない。低床や4トなど取引先の車両ニーズに敏感かつ、柔軟に対応していくこと。それが、わが社が生き残っていく道だ」と思う。この半年間で4ト車も4台増やした。

専門性の高い仕事だけに「ドライバーはベテランが多いが、自分の経験や判断に頼るばかりではなく、常に学びの姿勢で臨んでいる。これまで40年やってこられた理由の一つだと感じている」と取締役の高村伸一氏。ただ、ベテランが多いというのは、奥言すれぱ一ト話す。(Miyagi)